



第15回 YWCA 日韓ユース・カンファレンス

脱原発とエネルギー正義のための共同声明書

YWCA 日韓ユース・カンファレンスは、毎年両国の青年が集まって東北アジア地域の現実に悩みながら一緒に議論し、平和の実現のために努力してきました。

これまで両国の青年は、両国の原子力発電の安全神話と原子力発電に依存したエネルギー政策の中で原子力発電が持っている危険性と様々な問題に対してははっきりと認識したり、感じることはありませんでした。

私たちは、今までむやみに使ってきたエネルギーがどこからきて、どのように作られるかという過程などに関して関心がなく、よく知りませんでした。

しかし、私たちは、今回の日韓ユース・カンファレンスで、福島住民の証言と、韓国ミルヤン(密陽)送電塔建設に抵抗して闘っている住民の話聞き、原子力発電の恐るべき危険性と、原子力発電が少数の利益のために弱者を犠牲にする不正義の構造の上に成り立っていることを切実に認識しました。誰かを犠牲にして手に入れる快適な生活は本当の幸せだとは言えず、私たちもいつかは第二・第三の犠牲者になり得ます。こうした意味で、福島とミルヤンは緊密に繋がっており、その問題を解決するために私たちが力を合わせるべきです。つまり、ミルヤンが私たちであり、福島が私たちです。

また、東京電力福島原子力発電所の事故以来大量の放射能が放出されました。これによって何十年が経っても無くならない原子力発電所の廃棄物と汚染の危険を次の世代に背負わせることになりました。この不正義な現実に対しても私たちは痛みを持って直面しました。それに加えて原子力発電所から作られる核燃料が恐るべき核兵器に転用されえることも大きい問題として認識し、原子力発電と東北アジアの平和は決して両立できないという事実にも気付きました。

東北アジアは世界一の原子力発電所の密集地域であり、どこで事故が起こったとしても東北アジア全体が取り返しが付かない運命にあります。だから東北アジア地域に住んでいる私たちは同じ船に乗った一つの運命共同体です。

脱原発を実現させて、誰かの犠牲を強要するエネルギー政策から、安全で再生可能なエネルギーに転換して、他人を犠牲にしない本当のエネルギー正義を実現させるために、私たちは次のように決意します。

1. 私たちが知った、核の危険性と不正義に関して、周りの青年と市民たちに SNS をはじめとするインターネットなどの影響のある発信手段を使って積極的に知らせていく。
2. 自分の利益と便利さより他人と地球上のすべての生命のことを大事に考えながら、分別なくエネルギーを消費し続ける習慣とライフスタイルを見直す。
3. 自分の便利さと利益のために人に犠牲と責任を背負わせるのは正義ではない。私たちは、未来世代へ危険な負の遺産を残す原子力発電に反対し、持続可能で正義ある再生可能エネルギーに基づいた社会を作るために先頭に立つ。
4. 世界第一の原子力発電所密集地域である東北アジアにおいて、韓国と日本は運命共同体である。核のない社会と東北アジアの平和のために、私たち日韓青年は緊密に協力し合いながら平和のために持続的に連帯していく。

2013年8月26日
第15回YWCA日韓ユース・カンファレンス 参加者 一同

日本YWCA

〒101-0062 千代田区神田駿河台1-8-11 東京YWCA会館302号室